

令和元年 11 月 20 日 (水) 15:00~17:00 @ 経済産業省

Society5.0 における新たなガバナンスモデル検討会 (第 4 回)

議事要旨

<資料説明>

○法とコードについて (上野山委員)

○検討会中間報告書 (案)、報告書タイトル、表紙デザインについて (経済産業省)

<主な討議内容>

○中間報告書の内容について

2 章 : 本提言における分析枠組

- 市場・社会規範と法規範は横並びとしない方が良い。前者は自然言語で記述され非線形に変化するが、後者は階段状に変化し、自然言語・機械語の中間的記述がされる。
- 国家・政府、企業、コミュニティ・個人といった主体は、相補的な部分がある旨を強調してもよいのではないか。
- 透明性の議論では、ソフトウェアコードによる自動執行前に事前チェックするか、事後モニタリングするという議論が出る。特定の規制産業ではソフトコードのログを取っておく等の対応が考えられる。

3 章 : 既存のガバナンスモデルが直面する課題

- 記載された課題と後段のガバナンスモデル (解決策) が紐づいていない。
- 主体と役割の関係については、変わる可能性も含め整理した方が良い。
- ルール形成にはアップデートも含む旨、Enforcement については、objection あるいは dispute resolution を含む旨を注記した方が良い。
- 事業者・企業活動は従前から複雑だったが、近似的な外形を設定して規制していたところから実現可能な規制の手法が変わっているという側面もあるのではないかと。
- 「アルゴリズムの操作」が算法だけの問題か値の問題を含むか等の注記が必要。
- ダヴィデ&ゴリアテの例は、強力な武器を持ってうまく使わないと幸せにならないという例でもある。国は法規制を有するがイノベーションを阻害する懸念もある。

第 4 章 : 各主体によるガバナンスの長所と課題

- 「法」にも業法のような政府中心モデルのものと市場メカニズムの回復を図る裁判のような、コミュニティ・個人中心モデルの両面がある点は記載した方が良い。

- 個人がガバナンスの主体として機能し得る状況になってきているのだろうが、如何にインセンティブ付けするかという問題が残る。

第5章：新たなガバナンスモデルのフレームワーク

- Condorcet は、可謬性を意識し、科学の進歩につれ既存制度が古くなるとして、制度の問い直しを重視した。問い直しの機会をオープンに作ることを意識してはどうか。
- コンプライアードエクスプレインモデルもフィードバックがあることに意味がある。
- 図の下に、ガバナンスモデルに対するコモンセンスやカルチャーを入れた方が良い。皆が同じ景色を見て、互いに協創すること、そして、それを分かり合うためのスタートとして、報告書を位置付けてはどうか。
- どのリスクにどう向き合うか、何のトラストが不足しどう補うか等、リスクアセスメントの様な要素が加わると良い。
- 自主規制・共同規制との使い分けを念頭に置いた整理があると良い。
- 政府が、政府だけではなく、民間側がモニタリングした結果を活用する視点もある。
- 海外とのインターオペラビリティも、アジャイルに進める旨を記載した方が良い。

第7章：新たなガバナンスモデル実現に向けた取組み

- エンティティ横断で共通的に参照もしくは貢献できるフィードバックの場づくりが重要。対話の場を作りオーケストレーションするというアクションも入れると良い。
- 規制の見直しにおいては、データを活用して、自然科学的に、客観的に検証していくという視点を入れられると良い。
- 「施策例」は、他省庁に「ひな形」として配布可能なものとして作成できると良い。

全般

- 政府を含め全ての人は間違えるという前提を置く。すると間違いへの対応としてフィードバックが入る。政府と国民間でのフィードバックには司法が該当し、それをアジャイルに解決するには、国民の政府に対する異議申立ての場が必要ではないか。
- 規制を入れた後は、その見直し・調整を組み込んでいく必要があり、そのためのフォーラムが必要である。司法・立法・世論といったフォーラムはイノベティブではないので、人為的にイノベーションに関するプラットフォームのようなものを作る必要があるのではないか。
- 「アーキテクチャ」と「アーキテクチャの記述」を使い分けて記載すべきである。
- 「アーキテクチャの範囲」として、サイバー空間だけでなくフィジカル空間も含めた範囲が対象となるだろうが、書き分けには注意が必要である。

○報告書タイトルについて

- 国際的にも通用するタイトルが良いだろう。
- Code は法典と解される可能性が高くアーキテクチャの方が誤解を生じ難いだろう。
- 報告書は、ガバナンスの主体とプロセスの二軸で説明されているので、タイトルにもこの二軸を反映する方法もある。
- 共同で規制をかけるというイメージを得るには Collaborative を入れると良い

○報告書表紙について

- サイバーの要素が強いのでフィジカルな要素を入れた方が良い。
- 人種、性別、年齢等全体を体現している形が良い。
- 西洋へのアピールという点を踏まえ、西洋の方々の意見を聞いてはどうか。